

滋賀県内におけるチャネルキャットフィッシュの捕獲状況

臼杵 崇広

1. 目的

近年、県内で特定外来生物であるチャネルキャットフィッシュの捕獲事例が増加しており、その対策を講じるうえで捕獲情報をとりまとめる必要がある。

2. 方法

これまでに、水産試験場に寄せられた本種の捕獲情報を年度ごとに地図上に記載した（図 1。一部に県立琵琶湖博物館に寄せられた情報を共有したものを含む）。

3. 結果

県内では、本種は平成 13 年に旧西浅井町（現長浜市西浅井町）のエリで初めて捕獲された。平成 19 年には南湖（本報告では琵琶湖大橋から瀬田川洗堰までの間とする。これに対して、琵琶湖大橋より北の琵琶湖を北湖とする。）で初めて捕獲された。さらに、平成 20 年には、瀬田川洗堰下流の瀬田川（以下、瀬田川という。）で初めて捕獲された。その後、瀬田川での捕獲尾数は、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて急増したものの平成 27 年度

にはやや減少した（図 2）。平成 23 年には、瀬田川で全長約 5cm の稚魚が複数捕獲されたこと、その後さまざまなサイズが多数捕獲されていることから瀬田川では本種は繁殖しているものと考えられる。

一方、北湖では平成 15 年の 2 尾目を最後に捕獲されていない。また、南湖では平成 19 年以降はしばらく捕獲されなかったが、平成 24 年以降に再度捕獲され、平成 26 年度には捕獲尾数が 7 尾と増加したが、平成 27 年度には 2 尾と減少した。

琵琶湖における本種の繁殖については現時点で不明であるが、瀬田川と併せて引き続き本種の動態を注視していく必要がある。

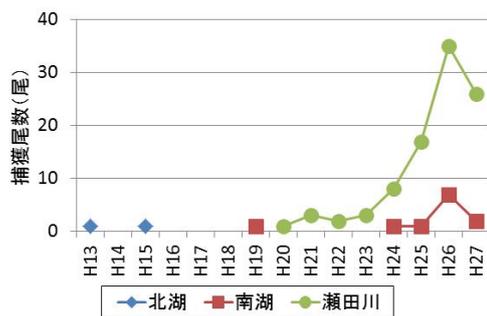


図 2 チャネルキャットフィッシュの捕獲状況

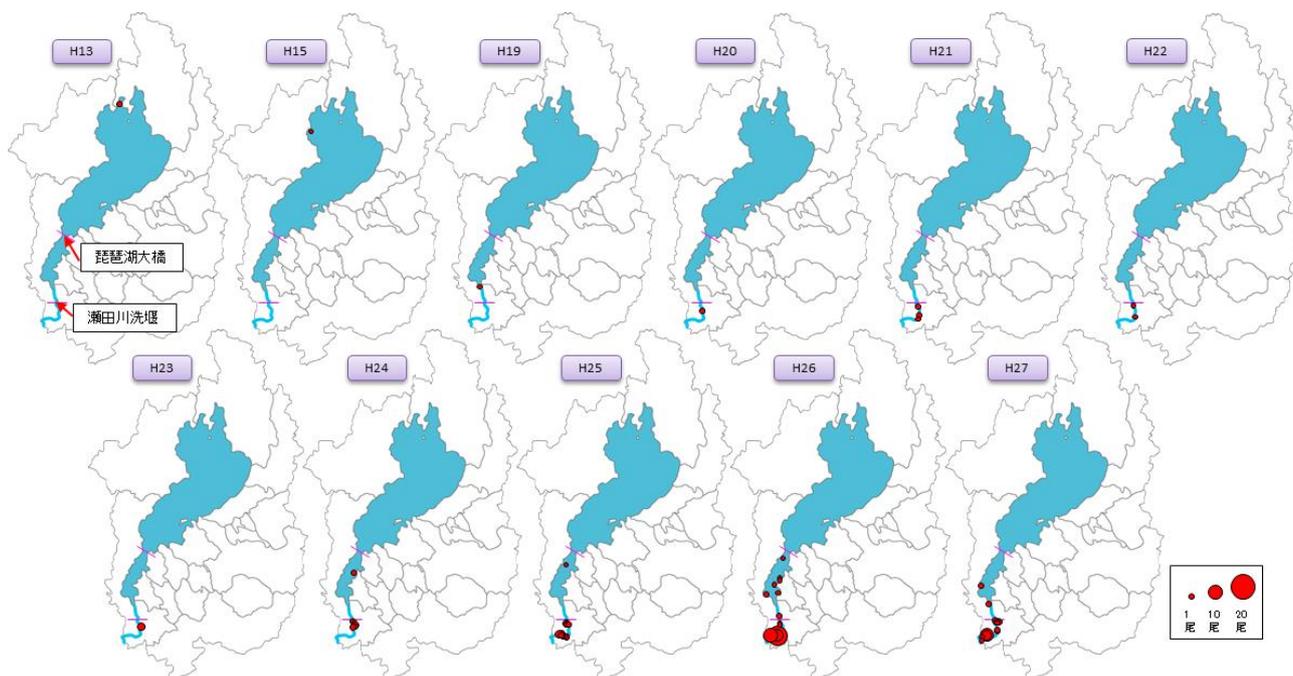


図 1 年度ごとのチャネルキャットフィッシュの捕獲地点

* 同一日に一定の範囲で捕獲された場合は代表的な地点に集約した。